

(別記様式)

平成 30 年度 府立聾学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	30 年度の成果と課題 <成果○、課題◎、次年度◇>	30 年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>学校はもとより家庭・地域等社会総がかりで取り組む聴覚障害児教育のセンターとして、聴覚に障害のある幼児児童生徒(以下、「児童等」)一人一人の自立や社会参加を実現し、就学前から卒業後に至るまでの一貫した特別支援教育を推進する。</p> <p>(1)礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、積極的に社会と関わりながら、それぞれの地域の文化を愛し育て、次代を支える人間を育成する。 (2)高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、創造力豊かにこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。 (3)夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を見通し切り開く力を育む。 (4)自然、人、社会とつながり共生できる力を育てる。 (5)目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し続ける意志と健康でたくましく生きる力を育む。</p>	<p>○授業改善プロジェクトにおいて、自立活動・国・数・道徳の各分野で推進し、外部専門家を活かし、主体性を引き出す発問などテーマの追求に取り組めた。今後は、全体的取組から各学部、各教科の課題やニーズにあった新学習指導要領に向けた実践研究を進める。加えて、文科省実践研究充実事業最終年は、研究成果を聾学校の財産となる見える形で記録する。</p> <p>○災害等時の緊急対応や授業時間数や安全確保に迫られたが、日頃の保護者連携を基に、理解を得て進められた。中でも、台風被害に対しては全教職員体制で乗り越え、近隣住民から感謝の声もいただいた。</p> <p>○手話に係る社会づくり条例の施行に伴い、乳幼児期から適切な指導・支援を行う中で、「幼児手話辞典」を活用した手話の普及を図り、聴覚障害への理解・啓発を進めた。</p> <p>○地域学校において聴覚障害のある子どもの交流をはかり、子ども・保護者同士を繋げることができた。今後も、聾学校としてセンター的機能を果たすことをめざす。 H30 年度実績(3月末現在延数)、教育相談 1011 件、内巡回教育相談 62 件、研修支援 45 件</p>	<p>(1)授業改善プロジェクトの継続により、教員一人一人の授業力を高め、児童等の言語力の向上と学力の定着をめざす。 (2)教育的ニーズを把握し、個々の障害の状態(きこえほか)を適切にアセスメントすることにより、個に応じた指導の充実を図る。 (3)児童等一人一人の教育的ニーズに応じて、手話、聴覚活用、口話等のコミュニケーション手段を活用し、誰もが分かり、学びを深められる授業(授業改善)に努める。 (4)社会と連携・協働した開かれた教育課程と幼稚部からのキャリア教育の充実を図り、一人一人の自立と社会参加をめざす。 (5)学校、医療、福祉等の関係機関と連携した相談・支援に努め、地域・社会に対する聴覚障害教育のセンター的機能を果たす。</p>

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
1 組織・運営	学校経営計画に基づいた組織的・計画的な学校運営を確立する。	学校経営計画の重点等の実現と連動した学部・分掌等の活動計画(計画・実施・評価・改善)を実施する。	B	B	<p>学校経営計画を全職員で確認し、学部、各部、聴言室、寄宿舎等で具体的な計画を立案し、評価・見直しを図ることができた。</p> <p>現状を分析するため、全家庭アンケート、中高生徒アンケートを実施。教育内容や授業等に対する評価を真摯に受け止める。</p> <p>公開研究会を含め、多数の学校訪問者を受入、学校を開くことができています。</p>
	外部評価を取り入れ、開かれた学校運営を進める。	学校評価についてホームページにより公表する。	B		
		児童生徒及び保護者アンケートを実施し、教育的ニーズを把握する。	B		
		学校評議員による評価を実施し学校経営に活かす。	A		
2 教育課程	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程を編成する。	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の作成の仕方や活用について検討を進める。	B	B	<p>一人一人の教育的ニーズに応じた教育内容が計画的に実施できた。プロジェクトにおいて、学部を越えて指導単元を系統的に整理でき、今後の効果的な</p>
	15 年間を見通した教育課程の検討とその系統性の推進を図る。	隣接学部の連絡会議において児童生徒の引継ぎを適正に行う。	B		

		指導内容の系統性、効果的な指導について検討する	A		指導に繋がられた。
3 学習指導	言語力の向上を図り、質の高い学力を育成するため、授業改善を進める。	定期的な授業研の実施、研修会の実施により、授業改善を進める。	A	A	すべての学部で公開授業研を開催できた。また、外部講師を生かした全校研修会を計画的に実施し、授業改善プロジェクトが推進的に機能を果たした。児童等の主体的な活動を引き出す発問について深める。 アンケートからは、生徒のほぼ全員が「授業が分かる」、保護者には59,3%(昨年比+1.6%)の方から分かりやすい授業と評価をいただいた。 読書活動を活発化させる児童等が本への関心を高めた。今年度府高図書部会で発表する。
	個に応じた教育を推進し、基礎学力の充実・向上を図る。	教育内容を精選し、創造的な指導の手立てを工夫し実践する。	A		
	自ら学ぶ意欲を育て、課題解決する力を育成する。	学習意欲や関心を高めるために、教材・教具を工夫し分かりやすい授業を実践する。	B		
	言語の豊かな発達を支援する。	読書や図書館活用のための指導や啓発を行い、図書館の利用を促進し児童生徒の読書意欲を高める。	A		
4 特別活動	集団や社会の一員としての資質を身につけた主体的・自主的な児童等の育成に努める。	児童会・生徒会活動を通して、児童等に自主性やリーダーシップなどが育つよう適切な指導を行う。	A	B	児童会・生徒会を生かしながら、年間を通じて児童等の主体的な活動を引き出すことができた。特に、学校行事を節目に意欲的に取り組んでいた。
		全校的な協力体制の下、児童等がその意義を理解し自主的・意欲的に参加できる円滑な行事運営を行う。	B		
5 生徒指導	基本的な生活習慣の確立に努める。	個々の実態に応じた計画的・組織的な指導を行う。	B	B	個々の事象に対する指導と、安全やルールなどに関する全体指導を組み合わせ実施できた。 出前授業など、外部人材を活用した取組を展開し、普段とは異なった工夫をこらし指導できた。 全校生徒指導会議を効果的に生かし、日頃からの児童等との関係性を大事にし、いじめ・問題行動など、初期段階から丁寧に対応できた。
	好ましい人間関係の育成と個性の伸長に努める。	個々のよさを認め励ますなど日々のかかわりを大切にする。	B		
		問題行動などへの対応を迅速かつ組織的に行う。	A		
	家庭・地域社会・関係機関との連携に努める。	家庭や関係諸機関と必要に応じて緊密に連携する。	A		
6 進路指導	望ましい勤労観・職業観を身につけ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成する。	適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適切に活用する。	B	B	着実な進路指導により、中・高等部3年生の希望進路を実現できた。 また、自らの進路を切り開くために、新たな企業開拓、加えて資格取得、京しごと検定、各種の作品出展など様々な機会をとりえて、児童等のチャレンジ精神を高めた。
		希望する進路の実現に向けて勤労観・職業観などの計画的・系統的な指導を行う。	B		
		進路学習や職場体験を通して、働くことの意味と責任を自覚し社会の一員として生きる力を育成する。	B		
7 人権教育	基本的人権と生命の尊さについて理解し、他人を思いやる心と、たくましく生きる力の育成に努める。	人権教育の推進に向けて校内研修を行う。	B	B	年間計画に基づく指導はもとより、朝礼時には時事問題を全体指導として盛り込むなど、障害理解や他者理解、人権にかかる教育を進めた。 また、教員研修として同和問題をテーマに研修を実施した。
		自己の障害認識を深めるとともにお互いの個性を認めながら、自他を尊重する態度や実践力を育てる。	B		
	新京都府人権教育・啓発推進計画に基づき、人権問題を正しく理解し、その解決に向けて行動できる力を育てる。	年間指導計画に基づき、様々な人権に関する教材作りを進める中で、児童等の実態に応じた人権教育に取り組む。	B		

8 健康・安全 教育	児童等の心身の健康状況を把握し、その保持増進を図る。	学校保健計画に基づき、定期健康診断・保健調査及び日々の健康観察を充実させ、心身の健康状況を的確に把握する。	A	今年度も滞ることなく適切に健康診断が実施できた。インフルエンザ等の感染症予防を早めから徹底し、感染者数も例年よりも少なかった。 医療専門職派遣事業を活用し、各部のニーズに合わせた研修が行えた。今年度はいじめの未然防止を目的としてスクールカウンセラーによる研修会を開催した。 継続した歯磨き指導等により丁寧な歯磨きが習慣づけられた。また、幼稚部保護者対象に栄養教諭による保健指導を実施した。 給食週間では献立募集、絵本に出てくる食材、外国の料理などメニューを工夫、また給食部と連携した小学部での調理活動を通して食育指導を進めた。
		医療専門職派遣事業を活用し、障害や疾病に関する研修を深め、適切に対応する。	A	
	児童等の実態に応じて健康・安全教育を進める。	保健指導及び保健学習を通じて、心身の健康に関する認識を高め、基本的な生活習慣を育成する。	B	
		年齢及び発達の段階に応じて、性に関する知識を学習し、正しい判断力と行動を養う取組を進める。	B	
		発達の段階に応じた安全指導を行い、安全に対する認識を深める。	B	
	児童等の実態に応じて食育を進める。	給食指導を通じて、望ましい食習慣の形成を促す。	B	
食に関する指導の全体計画を下に、各学部の取組を実施する		B		
9 研究・研修	専門性と教育的指導力の向上を図る。	新転任教職員等を対象に聴覚障害や手話に関する研修会を実施する。	B	手話研修担当者が主となり手話研修会を進め、また聴言室が主となり聴能研修会を進めている。ともに必要な専門性を学ぶ大変有用な場となっている。またはコンプライアンスに関する研修を実施した。
		センター研修等、各種研究会を積極的に活用する。	B	
10 学習環境	バリアフリー化を推進する。	種々の障害に配慮した施設・設備を充実させる。	B	B 財政の厳しい中、ICT機器の充実、学校安全に係る環境整備を行った。
	学習環境の整備に努める。	学習に必要な施設や機器の整備を行う。	B	
11 危機管理	危機管理システムの整備充実と活用力をつける。	緊急時対応訓練を実施し、危機管理マニュアルに基づく実践力を身につける。	B	B 大雨・台風時はマニュアル外の対応を求められ、教職員が一体となり、家庭・地域・行政と連携し対応することができた。また、寄宿舎生の帰省に係っては、例年以上にこまめに確認し、安全な下校を確保できた。また、災害時の保護者への連絡手段として新たに災害対応メールを開発するが、登録数・必要な返信に課題は残った。 新たな「感染症システム」にて情報共有を始めた。 校内の安全点検、情報セキュリティについては、今後も継続して取り組む必要がある。
		防犯、火災及び震災等による避難訓練を行う。	B	
	安心・安全の確保に努める。	毎月安全点検を行い、校内の安全を確保する。	B	
		家庭・地域社会と連携し、登下校の安全を確保する。	A	
		学校医、学校薬剤師、関係諸機関と連携し、学校環境衛生検査を実施する。	B	
	文書・情報管理の適正化をさらに進める。	個人情報扱いやコンピュータウィルス等への対応について、さらに具体的な改善策を検討実施する。	B	
12 家庭・地域 社会との	一人一人の教育的ニーズに対応できるよう、関係諸機関との連携を深める。	「個別の教育支援計画」を活用し、家庭、医療、福祉機関等と連携する。	B	B 事業所との連絡会を持ち、連携が図れた。 学校 HP を随時更新し、地域学校、各部の取組を

連携	広報・交流活動を積極的に行う。	ホームページの内容を充実する。	B	積極的に発信した。また、参観および懇談や学校説明会(学部ごと)の開催および学校見学依頼を広く受入れるなど、「学校を知ってもらう」ことに主体的に取り組んだ。
		参観や広報など、さまざまな機会をとらえて対外的な啓発活動を積極的に行う。	A	
13 センター 的役割	特別支援教育に関する相談・情報提供を行う。	乳幼児児童生徒に対して早期教育・通級指導などの適切な支援を行う。	A	3月末現在延数、教育相談 1011 件(12%UP)、内巡回教育相談 62 件、研修支援 45 件などを行う。相談内容はコミュニケーション、生活に関するものが9割を占める。相対的に乳幼児教室の相談が増加した。 HP を随時更新し、地域学校、各部の取組を積極的に発信し、学校見学の受け入れや学部の学校説明会を開催するなど、学校を広く知ってもらうことに主体的に取り組んだ。
		公開参観日や学校公開等、さまざまな機会に対外的な啓発活動を進める。	B	
	他校への支援を行う。	本校において聴覚障害教育に関する研修会を開く。	A	
		聴覚障害教育に関する情報及び教材の提供や補聴援助機器の貸し出しを行う。	B	
医療・福祉・労働の関係機関等との連携を図る。	医療・福祉・労働・教育機関等の関係諸機関と地域連携協議会や合同研究会を行う。	A		
14 キャリア教育	児童等のキャリア発達の視点より、各段階でのキャリア発達を促す指導を推進する。	年齢及び発達の段階に応じて、児童等が目標をもち、達成感の味あえる計画的な活動を行う。	B	プロジェクトにより、基礎的な力(自立活動等)で指導内容を学部段階ごとに整理できた。今後、各指導内容で求める力が積み上がり、卒業後の生活や社会参加に生きているか検証が必要である。 企業で働く本校卒業生による講話など実施。身近な先輩から学ぶことができた。
		卒業後や社会参加の姿を見通した指導を視野に入れた指導を行うよう、労働関係機関等と連携した校内研修を行う。	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善で子どもの主体性を育成することは良い研究であり、大いに進めて欲しい。そのためにも、基礎となる語彙力、コミュニケーション力をつけて欲しい。また、「心の教育」について家庭だけでなく、学校も一緒に育てて欲しい。 保護者アンケート結果を生かして、よりよい学校づくりを進めて欲しい。(学力そして、望ましい人間関係を育てることなど) 高校進学が多様化し、希望して入学した高校で困ったことがあっても相談ができずに我慢している生徒がいる。ハード面だけでなくソフト面でも支えて欲しい。 中学部段階での職場体験は、大変良い取組である。継続して欲しい。 式典で子ども達が手話を使って語っている様子は、以前の聾学校とは違う。保護者学習会にとどまらず、校外への手話啓発を進めて欲しい。
-------------------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>「魅力ある学校づくり」に向けて</p> <p>重点①「授業改善」⇒ 外部専門家による継続的な指導助言のもとに、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善及び教科等横断的な視点を持ち学年・学部の相互の関連(学びの連続性)のある教育課程の編成</p> <p>重点②「開かれた学校」⇒ 地域資源を生かした取組、近隣校や居住地校との交流を進める。本校の教育活動の発信</p> <p>重点③「学校と地域との協働関係」 ⇒ 保護者、地域、医療、福祉等の関係機関と協力した学校運営づくり</p>
---------------	--